日本海ブロック試験研究集録
水産庁　日本海区水産研究所
第 9 号，105～107，1987

ボウズイカの卵と稚仔（要約）

中　田　　淳
（北海道立釧路水産試験場）

1982年５月９日，北海道釧路市南西沖12km，水深150～160ｍの海底から小型底曳網により，コウイカ目ダンゴイカ科に属するボウズイカ（*Rossia pacifica*）の卵塊が採集され，さらにその卵塊からふ化稚仔が得られた。

本種の卵と稚仔についてこれまで知見はなく，本報告が初めてである。以下にそれらの特徴を述べる。

① 卵塊は，素焼き土管の破片のくぼみに産みつけられていた。

② 卵塊は，約200個の卵からなり，各卵はその外皮（卵殻）の一部でそれぞれ付着し，間隙をもった一つの塊りをなしていた（図１）。

図１　素焼き土管に産み付けられたボウズイカ（*Rossia pacifica*）の卵塊

③ １個の卵は，レモン状で長軸方向（産卵基物に対して鉛直方向）の一端に小さな突起があった。

④ １個の卵は，灰白色の外皮で覆われており，５～10％ホルマリン固定後の大きさは，長径13.1～15.9（平均14.4）mm，短径10.8～12.4（平均11.6）mmであった。外皮を取り除いた後の卵径は，長径12.8～13.4mm，短径11.0～11.7mmであった。

⑤ 卵塊を観察中，物理的刺激で稚仔が数尾ふ出したが，その外部形態は親のそれによく似ていた。ふ出時の稚仔の外套背長（ホルマリン固定後）は，5.7～7.0（平均6.3）mmであった。

⑥ ボウズイカの卵径とふ化稚仔の外套長は，本邦産コウイカ類のそれ（奥谷，1979）と比較すると，ミミイカ，ヒメイカおよびシリヤケイカよりかなり大きく，カミナリイカ，コブシメより小さく，コウイカのそれに匹敵した。

⑦ ボウズイカの卵とふ化稚仔の特徴を海外産の近縁種ヨーロッパボウズイカ（*R. macrosoma*）のそれ（Boletzky&Boletzky, 1973 ; Roper et al, 1984)と比較すると，卵の形態や卵塊の構造は両者でよく似ていた。しかし，卵径とふ化稚仔の大きさは，ボウズイカの方がヨーロッパボウズイカのそれよりやや大きく，また，一つの卵塊中の卵数もボウズイカの方が多かった。

文　　献

Boletzky,S.V. and Boletzky,M.V. (1973). Observations on the embryonic and early post-embryonic development of *Rossia macrosma* (Mollusca, Cephalopoda). Helgoländer wiss. Meeresunters. (25), 135～161.

奥谷　喬司（1979）．頭足類の生物学４．－コウイカ目の分類と生態(3). 海洋と生物，(4)，65～71.

Roper,C.F.E., M.J.Sweeny and Nauen,C.E. (1984). FAO Species catalogue Vol. 3. Cephalopods of the world. Annotated and illustrated catalogue of species of interest to fisheries. FAO Fish. 125(3), 277pp.